世田谷村日記

石山修武

九月十六日

七時四十分起床。なんと阪神優勝で道頓堀に飛び込んだ人間らしきが五千六百人いたという、何ともはや末世だね。十時研究室。十三時迄打ち合わせ。夜週刊文春、書評書く。

九月十七日

六時文春の書評昨夜書き切れなかったのを書く。迷走している世の中で、ガイドブックをつくるのは勇気がいる事だろうが、マこの類のガイドブック建築ＭＡＰ東京２には害がない。七時過修了。そういえば昨日丹羽太一の友人の千村君からメールがあって一度研究室に来ると言う。家でも建てるのかな。

十時研究室。一つ打合わせ。室内長井顔を見せる。宮崎の藤野忠利さんより手紙・写真送られてくる。現代っ子ミュージアムの建築再生展の準備にそろそろ取りかかろう。

九月十八日

昼前研究室。山口先生よりお手紙いただく。留学生海日汗相談。博士を取得したら早くモンゴルに帰りなさい、子供がもう四才になったそうで、東京で育てていては駄目だ。こんな都市でモンゴルの子供が丈夫に育つわけがない、早くモンゴルの空気を吸わせよ、といささか乱暴ではあったが私の考えを述べた。ドイツ、ワイマールより留学生、デービッド来室。セバスチャンに続きタフそうな奴だ。早速プロジェクト担当を決める。台湾中原大学卒の留学生、両親と共に来室。研究室は民族のゴッタ煮状態を示してきた。陸海も中国調査旅行から帰った。十九時、台湾の陳さん一家と新宿で会食。その後車で家迄送っていただく。藤森照信から絵葉書が送られてきて、夏はスコットランドで巨石文化巡りをしていたらしい。縄文から巨石文化へ、遡行の旅だな。